

# 京都外国語大学

→ KYOTO UNIVERSITY OF FOREIGN STUDIES

## 「多言語教育×幅広い教養教育×地域での実践」によって、世界が求める知的チェンジメーカーを育てる「国際貢献学部」を新設

国際観光文化都市である京都を舞台に、外国語教育を軸にしたグローバル人材育成に取り組む京都外国語大学。長年、外国語学部だけの単科大学であった同大学では、今、新たに「国際貢献学部」の新設を計画している。2018年4月に開設を予定しているこの新学部では、どのような教育に取り組み、どのような人材を育てようとしているのか。現時点での構想をレポートする。

取材・文／伊藤敬太郎



学園創立70周年の記念事業として建設中の新4号館イメージ (2017年春竣工)

### 私立外国語大学トップクラスの19言語を学ぶことができる

京都外国語大学は、英語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、ブラジルポルトガル語、中国語、イタリア語をはじめ19言語におよぶ外国語を学ぶことができる。この言語数は私立大学ではトップクラス。このような多彩な外国語教育を軸に多数のグローバル人材を育成しているが、一方で、時代のニーズに対応した改革にも積極的に取り組んでいる。

2014年には、学科の枠を超えて複数の言語を学べる新カリキュラムをスタート。留学プログラムの充実も積極的に推し進めており、2015年には交流協定を結ぶ国立マレーシア科学大学内に「KUFUS-USM Japanese Cultural Centre」(通称：京都外大マレーシアペナンキャンパス)を開設するなど活発な動きを見せている。

さらに、反転授業型アクティブラーニングやProject-Based Learning (PBL)を導入。語学教育のみならず、学生の「人間力」を養成することも大きなテーマとなっている。

### 「言語を通して世界の平和を」という理念を時代に合わせて体現

同大学の教育のベースにあり、かつ一連の改革の指針となっているのが、「言語を通して世界の平和を」という建学の精神だ。松田武学長はこの理念に込められた想いについて次のように語る。

「本学が設立された1947年と現在とでは、時代的背景も国際情勢も大きく異なっており、その間にさまざまな社会的変化も起きています。当然、「言語と平和」が指し示すものも変わってくるでしょうし、そうあるべきだと考えています。つま

り、私たちには、この建学の精神の中身を常に問い直し、時代のニーズに合ったものに作り直していくことが求められているのです」

現在の国際社会が抱える課題を解決するために必要なものとは何か？ そのためにはどのような人材育成が求められるのだろうか？ このような問い直しを経て、今、同大学が推し進めているのは、「言語=外国語学習」「平和=社会科学の統合的探究」とする考え方を土台にしたグローバル人材育成だ。

そして、これを象徴するのが、2018年4月の新設を計画している「国際貢献

図1 京都外国語大学の学部・学科編成

● 現在の学部・学科編成	● 2018年4月からの学部・学科編成																		
<table border="1"> <tr><td>外国語学部(9学科)</td></tr> <tr><td>英米語学科</td></tr> <tr><td>スペイン語学科</td></tr> <tr><td>フランス語学科</td></tr> <tr><td>ドイツ語学科</td></tr> <tr><td>ブラジルポルトガル語学科</td></tr> <tr><td>中国語学科</td></tr> <tr><td>日本語学科</td></tr> <tr><td>イタリア語学科</td></tr> <tr><td>国際教養学科</td></tr> </table>	外国語学部(9学科)	英米語学科	スペイン語学科	フランス語学科	ドイツ語学科	ブラジルポルトガル語学科	中国語学科	日本語学科	イタリア語学科	国際教養学科	<table border="1"> <tr><td>外国語学部(8学科)</td></tr> <tr><td>国際貢献学部(2学科)</td></tr> <tr><td>グローバルスタディーズ学科</td></tr> <tr><td>国際協力コース</td></tr> <tr><td>グローバルビジネスコース</td></tr> <tr><td>グローバル観光学科</td></tr> <tr><td>観光政策コース</td></tr> <tr><td>観光ビジネスコース</td></tr> </table>	外国語学部(8学科)	国際貢献学部(2学科)	グローバルスタディーズ学科	国際協力コース	グローバルビジネスコース	グローバル観光学科	観光政策コース	観光ビジネスコース
外国語学部(9学科)																			
英米語学科																			
スペイン語学科																			
フランス語学科																			
ドイツ語学科																			
ブラジルポルトガル語学科																			
中国語学科																			
日本語学科																			
イタリア語学科																			
国際教養学科																			
外国語学部(8学科)																			
国際貢献学部(2学科)																			
グローバルスタディーズ学科																			
国際協力コース																			
グローバルビジネスコース																			
グローバル観光学科																			
観光政策コース																			
観光ビジネスコース																			



学部」である。

京都外国語大学は、設立以来、外国語学部の単科大学だったが、現在の外国語学部国際教養学科を発展させて、新たに国際貢献学部を新設。国際協力コース、グローバルビジネスコースを擁する「グローバルスタディーズ学科」と、観光政策コース、観光ビジネスコースを擁する「グローバル観光学科」の2学科が設置される予定となっている(図1参照)。

## 専門科目を英語で学ぶ グローバルスタディーズ学科

国際貢献というと、国際機関やNGOでの活動などがイメージされるが、京都外国語大学では、「国際貢献学」を次のように、より広義に定義している。

1. 世界で起きている事象を、国民国家の枠組みを越えグローバルな視点から柔軟かつ多面的にとらえ、他者の意向を尊重しつつ対等な立場で意思疎通できる能力を養うこと。

2. 学際的な学びを通して得られる「学問知」と実践を通して得られる「経験知」を統合する能力を培うこと。

3. 社会や組織の課題を解決し、人類共通の利益に資する諸変化をもたらす能力を培うこと。

「グローバル化の進展にともない、ヒト・モノ・カネが自由に国境を越えて私たちの生活に影響を及ぼしている現在は、ビジネスにおいても新しい課題が次々に生まれてきます。国際貢献学によって養

われる力は、狭義の国際貢献・国際協力にとどまるものではなく、国内外で課題解決に取り組むすべての人に求められる力です。語学に加え、社会科学の技法も身に付けることで、世界が求める“知的チェンジメーカー”を育てていきたいと考えています」

その国際貢献学部の教育のイメージを示したのが図2。

これまでの同大学は、語学や文化を中心とした人文科学を教育の軸としていたが、そこに、政治学、経済学、経営学などの社会科学の要素を融合しているのが新学部の教育の特色の一つ。

そして、これらのスキルや知識を実社会で使えるものにするために、もう一つ重要な要素となるのが、地域での実践活動である「Community Engagement」(詳細は後述)だ。

次に、それぞれの学科の教育コンセプトについて見ていこう。

グローバルスタディーズ学科の大きな特色は、英語で専門科目を学ぶこと。例えば、政治学や経済学などの科目も英語で学ぶことで、地球規模の課題解決につながる幅広い社会科学系の知識や技法を身に付けるとともに、海外の大学で学んでいるのに近い語学運用能力を習得することが可能になる。

また、留学生も積極的に受け入れ、日常的に英語でコミュニケーションする環境を作る。

国際協力コースでは、政治学、国際関係論、国際法・人権、国際機構論など



松田 武学長

を軸に、国家の単位を越えた人類共通の問題について理解し、その解決策を考え、実践することができる人材を育成する。国際機関や行政、NGOなどで活躍する人材を輩出するイメージだ。

一方、グローバルビジネスコースは、経営学、経済学、組織理論、統計学などを軸に、経済社会の発展によって人類普遍の豊かさがどのように実現されるかを学ぶ。グローバル企業などで、国内外の課題解決型ビジネスやイノベーションに貢献するビジネスパーソンを育成することを目標とする。

## 「観光」を「多文化間交流」と とらえるグローバル観光学科

グローバル観光学科は、もちろん「観光」がキーワード。しかし、同学科では、この「観光」の概念もより広義にとらえている。

「もちろん、旅行会社やホテル、航空会社など従来の観光産業も、グローバル観光学科の対象ですが、今や観光の概念は大きく広がってきています。フードツーリズム、ヘルスツーリズムなどの体験型・交流型の観光に象徴されるように、観光はまさに“多文化間交流”の機会。さまざまな出会いや発見が生まれるコミュニケーションの場であり、産業としての可能性は急速に拡大しています」

その意味で、狭義の観光産業以外の分野でも、「多文化間交流」としての観光について、グローバルな視点から体系

図2 国際貢献学部の教育のコンセプト



## COLUMN

## 楽しみながら学べる! 多言語教育を支援する教育&amp;施設

## ● 2言語同時学習

## 「英語&amp;もう1言語が飛び交う教室」

京都外国語大学では、8言語の学科を取り揃えている強みを活かし、英語を軸に、スペイン語、フランス語、中国語など、もう一つ別の言語も取り入れて、一つの教室内で二つの言語を学ぶことができる授業を導入している。

授業はそれぞれの言語の教員が参加し、チームティーチングで行われる。その内容も多様でユニークだ。例えば、英語と中国語を学ぶ授業では、3人一組になって、一方の端の学生が英語で、もう一方の端の学生が中国語で話し、中央の学生がそれぞれを通訳するといった試みも。楽しみながら多言語を身に付けられる魅力的な教育方法だ。



英語

+

スペイン語  
フランス語  
ドイツ語  
ポルトガル語  
中国語  
イタリア語

## ● 外国語自律学習支援室NINJA

## 「留学生スタッフと多言語でコミュニケーション!」

学生が外国語を楽しく自律的に学ぶことをサポートする施設。外国語学習に関する相談や、ネイティブのラーニングアドバイザーの指導によるスピーキング&ライティングのトレーニングができる他、さまざまな国から訪れている留学生スタッフと多言語でコミュニケーションすることも可能。留学生を交えたイベントなども頻繁に開催され、教室とは一味違った感覚で外国語学習を楽しむことができる。



的に理解している人材が必要なのだ。

そのため、グローバル観光学科では、観光学、統計学、政策科学、環境学、経営学、組織理論などを柱とした教育を提供。国内外の地域課題解決に貢献できる人材を育てていく。

観光政策コースは、文化政策として観光振興について学ぶコース。行政やNPO、観光系企業などで、地域振興やインバウンド政策の立案などに取り組む人材を育てるイメージだ。

一方、観光ビジネスコースは、旅行会社やホテルなどの従来型の観光産業をはじめ、幅広い分野の企業で、多文化間交流としての観光ビジネスを仕掛ける人材を育てていく。

なお、グローバル観光学科も留学生を受け入れるが、こちらは、専門科目の授業は日本語で行う予定だ。

もちろん、京都外国語大学の特色である多言語教育は新学部でも実践される。「外国語大学を最大限活用する方法は二つあります。一つは、中学から6年間

も勉強してきた英語を一日も早く徹底的にマスターし、他の外国語の習得に取り組むこと。もう一つは、こちらも英語を徹底的にマスターしたうえで、高度な英語運用能力を土台にして、英語以外の専門知識を身に付けること。新学部はまさにそれらを実現できる学部とする予定です」

### 国内外で地域課題解決に取り組む「Community Engagement」

そして、国際貢献学部の両学科において、人文科学と社会科学が融合した学びを「経験」の面から血肉化するのが、留学であり、「Community Engagement (コミュニティとの連携・協働)」である。後者は、実際にコミュニティに入り、教室で学んだ知識を活かしながら、地域の人たちと共に地域課題の解決に取り組むサービスラーニングだ。グローバル観光学科では、京都という地域性を活かし、国内でも行うが、グローバルスタディーズ学科では

欧米、アジアにわたる海外で行うことを構想している。

「2年生の後半から3年生の前半くらいの時期に組み込むことをイメージしています。あるいはもっと早い時期に行っても何度も経験してもいい。留学とは異なり、例えば現地の福祉施設などで活動することにより、学生はキャンパスの中だけでは得られない大きなものを感じとり、成長できるはず。『語学+a』としての実践ではなく、『社会や地域のために何かをしたい。そのために語学を習得しなければ』というスタンスで取り組んでほしいですね」

海外でのサービスラーニングは学生にとってハードルが高いチャレンジになるだろう。だからこそ、その経験は学生のモチベーションに強烈な刺激を与えることになる。

一連の教育を通して京都外国語大学国際貢献学部が育てる知的チェンジメーカーは、そう遠くない将来、現実の社会をどのように変えていくのだろうか。